

いまもあしたも誇れる座間であるために...

発行者：おぎはら健司
メールアドレス：ogi-ken@ae.wakwak.com
連絡先：042-705-5119 (ファックスも同じ)

おぎはら健司の市政レポート

常任委員会視察について

第三回目となる相模が丘なかよし小道七夕祭りが7月4日から7日まで開催され、保育園・幼稚園や子ども会、小学校、中学校、老人会等々による30本を超える竹飾りが展示されました。

今週末(19日)は毎月第三日曜日に開催されている「相模が丘の朝市」が相模が丘なかよし小道「さくらテラス」で午前8時から行われますので、是非とも足をお運び頂きたいと思います。

さて、先週は私が委員長を務める「座間市議会教育市民常任委員会」の行政視察として、恵庭市、北広島市、千歳市へ伺ってまいりました。

恵庭市では読書を通じて豊かな心の育成を目指す「人とまちを育む読書条例」条例について、北広島市では地域の郷土史や自然・産業遺産等を紹介する「北広島市エコミュージアムセンター知新の駅」について、千歳市では防災学習施設「千歳市防災学習交流センター そなえーる」を視察してまいりました。

まず、恵庭市は、今年度から座間市でも始まる、赤ちゃんとその親へ絵本をプレゼントすることで本に親しむと同時に親子の絆を育むための施策「ブックスタート」を全国最初に取り入れるなど、読書に触れる機会を増やす事で、子どもたちを始め市民の心を豊かにすることを目的とした条例について視察を行いました。

興味深かったのは「まちじゅう図書館」という事業で、市内の飲食店や商業施設等、申請のあった店舗を市が「図書館」として登録し、広報紙などで紹介をするという取り組みでした。

北海道には他にも、映画『じんじん』で有名になった「絵本のまち 剣淵町」もあり、読書に力を入れている市町村が多くあるようです。

次に北広島市の取り組みは、郷土資料館がない

座間市としては大変参考となる事業であり、私が委員を務める「座間市史編さん協議会」でも資料館建設が求められており、今回の行政視察の一番の目的として視察を希望した事業です。

少子化や人口減少に伴う児童数減少により小学校を統廃合して廃校となった学校施設を複合型施設として再整備し、その中に郷土資料館たる「エコミュージアム」を整備するという手法で、まちの歴史や遺産等を紹介する事業です。

北広島市といえば「少年よ大志を抱け」で有名なクラーク博士をはじめ、まちの歴史の中で特に欠かせない人物を紹介するコーナーや、まちが発展してきた経過が分かる写真等を展示することで、さらにまちを好きになってもらおうという狙いがあるそうです。

座間市に於いても、今後の少子化や人口減少社会に対応するため、小・中学校の統廃合等による施設一体型の一貫校設立の必要性があるのではないかと個人的には考えております。

例えば、相模野小学校と相模が丘小学校、相模中学校を施設一体型一貫校として現在の相模中学校用地に加え隣接する東京電力の電柱置き場を取得して整備し、空き用地となる相模野小や相模が丘小のいずれかの校舎を活用して、今回視察したエコミュージアムのような郷土資料館を設置し、加えて、規模は小さくなりますがスポーツ広場のような施設が併設出来たら良いのではないかと考えています。

皆様のご意見をお寄せ下さい！

今回に限らず、このレポートに対するご意見や、希望する内容・テーマ等がありましたらお知らせ下さい！



こちらのQRコードから簡単にメールを送信頂けます。